

報道各社ご担当者様



中国北京・首都医科大学と新潟薬科大学が姉妹校協定を締結しました！

両大学における教育研究の発展および
日中大学間の国際的協力関係の構築に向けて、
連携事業(学生の短期交換および研究連携)をスタートします。

○ 中国北京にある首都医科大学(校長 呂兆丰)と新潟薬科大学(学長 高木正道)は、学生および教職員の国際交流を通じた両大学の発展ならびに両国の産業振興を目的として、姉妹校協定を締結しました。

○ 1960年に創立された首都医科大学は、病床数16,000以上を誇り、1,500名以上の教授陣と3,000名近くの准教授を抱える中医学系の専門大学です。特に近年では国際活動を精力的に進めており、全世界に築き上げた50以上もの協力機関と、留学生交換プログラム等の連携活動を展開しています。

一方の新潟薬科大学では、薬学部において優秀な薬剤師や研究者を全国に輩出し、更に応用生命科学部では食品・バイオ関連産業など、全国有数の農業県である本県の特徴的な産業活性化を教育研究分野から支援することを目指しており、平成22年度には文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の採択を受け、5年間計画で総額約5億円規模の総合プロジェクトを推進する等、ライフサイエンスに特化した研究活動を積極的に推進しています。また、本年5月には中国吉林省の長春中医薬大学と「学術交流協定」を締結し、中日間共同研究プロジェクトを立ち上げる等、新潟発の国際活動を進めています。

○ 去る1999年9月、当時の北京連合大学中医薬学院(2001年に首都医科大学と合併)と新潟薬科大学は、国際間の教育、科学研究分野における交流と協力の発展のため、「友好協力関係」を樹立しました。その後、双方の大学において研究生の交換や共同研究を実施し、少しずつ着実に交流を積み重ねて参りました。

そして今回、正式に首都医科大学と新潟薬科大学との間で「姉妹校協定」を締結したこと

により、具体的には、「学生の短期交流プログラムの実施」や「共同研究プロジェクトの推進」、「講義や講演・シンポジウムの開催」や「事務職員の情報交換」等において交流を深めていくこととなります。

○ 先般、10月27日から10月31日まで、新潟薬科大学の高木正道 学長や石黒正路 産官学連携推進センター長を始めとする大学関係者一団が首都医科大学を訪問し、姉妹校協定締結に伴う調印式を挙げて参りました。

式のなかで、新潟薬科大学の連携プロポーザルについて説明を受けた首都医科大学の王副校長は、「我々の大学は、幅広い分野での研究を特徴としており、また、伝統医療と現代医療の両方から築き上げた豊富な臨床リソースが存在する。」と今後の連携に向けて意気込みを述べられました。また、新潟薬科大学の高木学長からは、「伝統中医学の素材や方法論と本学の分析、分子生物学的研究技術が連携することにより、東洋の伝統思想である薬食同源を共通基盤とした研究開発の促進に繋がる。」と今回の協定締結の喜びを述べられました。

○ 詳細につきましては、ぜひとも下記までお問い合わせいただき、県民の皆様へご周知いただければ幸いです。

【本件に関するお問合せ先・掲出責任箇所】

新潟薬科大学 産官学連携推進センター事務局(渡辺・茂木)

TEL:0250-25-5401 FAX:0250-25-5021

E-mail:kwatanabe@nupals.ac.jp <http://www.nupals.ac.jp/>

【参考資料】



調印式の風景 と 全体集合写真